

# LIFE TIMES

三菱化学物流株式会社  
<http://www.mclc.co.jp/>



平成22年9月1日(水)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部 ソリューション部  
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号  
電話番号 : 03-5408-4620  
発行責任者 : 中島 英男  
お問合せ窓口 : 古田 泰幸

## 第89号

### [目次]

1. 防災体制強化への取り組み
2. 2010年度 三菱化学(MCC)グループ生産技術ポスターセッション参加報告
3. 東京港コンテナターミナルゲートオープン時間の拡大
4. 物流拠点パッケージの紹介
5. 衛星場所自慢 Part2 ~海外編②  
~MCL Logistics Asia Pte Ltd
6. ロジスティクス・SCM+流通フェア
7. (社)日本ロジスティクスシステム協会(JILS)「物流子会社懇話会」について



## 1. 防災体制強化への取り組み

当社では、物流リスクへの対応として防災体制の強化に取り組んでいます。従来より、危険物の輸送中の事故を想定した通報訓練を毎年実施していましたが、2008年より特に危険性の高い製品を選定し、「3ヵ年計画」を作成、「本社・支社・油槽所・営業部」の連携を重視する訓練を実施してきました。本年度は中国支社、四国支社で実施します。

また、荷主と連携した訓練も合わせて実施しています。7月実施の中国支社では、アクリロニトリルで輸送中の漏洩事故を想定した通報訓練を実施しました。出荷場所より遠隔地で発生した漏洩事故を想定し、荷主・納入先・親会社(三菱化学社)・協力会社・当社の5社連携による訓練となりました。対策本部も東京・水島・現地の3場所に設置し、非常に実践的かつ有意義な訓練でした。本年度は、液化アンモニアの通報訓練も計画しています。

また、当社では新中期計画「READ2012」がスタートしました。「安全・QAは物流業務の全てに優先する」というRC方針の下、トラブルの未然防止・再発防止を最大の目標に、リスク管理の強化に取り組んでいます。特に危険品については物性教育を実施し、防災体制の更なる強化を図ります。

当社は、教育と訓練を通じた防災体制の強化により荷主の皆様へ信頼される「安全、安心」な物流企業を目指しています。

### —通報訓練 3ヵ年計画—

年度	場所	製品名
2008年実績	尼崎油槽所	液安
	九州支社	EL混酸
2009年実績	川崎油槽所	アクリルアマイド
	鹿島支社	フェノール
	中部支社	アクリル酸
2010年計画	中国支社	アクリロニトリル
	四国支社	液安

## 2. 2010年度 三菱化学(MCC)グループ生産技術ポスターセッション参加報告

今回、MCC水島工場・開発研究所・先進技術開発室よりお誘いがあり、同社の生産技術ポスターセッションに初めて出展し、同社小林社長及び各役員を含む参加グループの皆様に対して、当社のソリューションをPRさせていただきました。以下、概要をご報告いたします。

1. 日時:2010年7月28日(水) 15:00~17:30 (1分間プレゼン、全31テーマの展示・説明)
2. 当社テーマ:「物流効率化ソリューション、ツールの紹介」
3. 内容:昨年度より開発の「物流解析ツール」3種につき、その説明とデモを実施いたしました。3種とは、①出荷場所(SP)最適化ツール②一貫単価作成ツール③適正在庫シミュレータです。(詳細については、本紙第83号~85号に掲載。<http://www.mclc.co.jp/lifetimes/index.html> 参照)
4. 結果:

今回のポスターセッションは全体的に好評とのことでした。  
(入場者:延べ約250名:過去最高とのこと)

当社展示は、約2時間の説明時間中来訪者が途切れることなく約20名の方に説明させていただきました。「実物流」に適切に対応した「使えるシミュレーター」として高評価を得たものと理解し、深く感謝いたします。

MCC小林社長のご挨拶では、大半をロジスティクスの話に時間を割いておられました。当社を含めRFIDやハンディターミナルを展示された他社等、今回初めて「物流」が参加し、印象的であったとのこと。多くの方に出会いご意見をいただくことができ、当社にとっても大変有意義な展示会となりました。次回も是非参加したいです。



## 3. 東京港コンテナターミナルゲートオープン時間の拡大

7月1日から東京港のコンテナターミナルにおいて16時30分までのゲートオープン時間を20時まで拡大する取組みが開始されました。この取組みは生産・出荷体制の効率化及び運送事業者の配車効率向上を図るとともに、コンテナターミナルの効率的な運営体制を構築し、民間事業者による自立事業として、継続的な運用を目指すことから、2009年12月に名古屋港で開始され、四日市港、神戸港、大阪港、横浜港に続いて東京港でも開始されました。

この取組みには以下の点が期待されています。

### 1)リードタイム短縮

⇒ バンニング作業翌日にターミナル搬入していた貨物を当日中に搬入する事が可能。

### 2)コスト削減

⇒ 「仮置き」が解消され仮置き費用の削減が可能。

※仮置き費用(例) : 保管費用・荷役費用・用地代・セキュリティ確保費用等

### 3)配車効率や積載効率の向上

⇒ 拡大された時間に貨物を搬出出来れば、早朝や午前中の運送が可能。

貨物が揃えば拠点からの積載効率や配車効率を向上させる事も可能。

### 4)セキュリティ確保に有効

⇒ 港湾施設の保安対策強化が義務付けられているコンテナターミナルに早く搬入する事はセキュリティ確保にも繋がる。

16時30分以降の作業については利用者が時間外料金を負担しなければならないものの、生産や出荷体制の構築見直しや在庫最適化等により、競争力強化及び経営最適化へと繋がる事が期待されています。

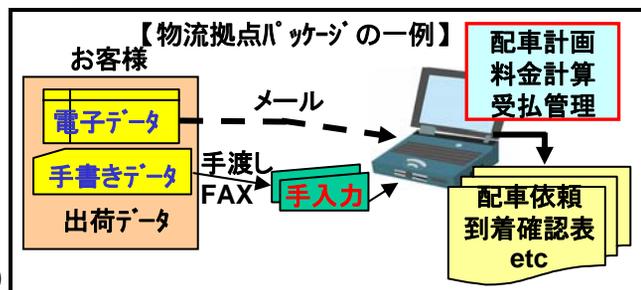
## 4. 物流拠点パッケージの紹介

新しいお客様の物流業務を受託する場合、データ連携をどのように行い、どのようなシステムで運用していくかは、極めて重要な課題です。当社はMCLC-EPOCHという物流基幹システムをメインにして業務運用を行っておりますが、今回は1拠点内で運用する『物流拠点パッケージ』の紹介をします。

『物流拠点パッケージ』は「EDI連携の要望がないお客様に対しても、お客様のニーズに柔軟に対応出来る機能がほしい」というような現場の声に応える形で、個々の現場に対応するシステムを当社ソリューション部で開発・導入してきたものです。ソフトウェアはExcelとAccessをベースに、それぞれのVBA機能を使って作成しています。現在迄、5つの拠点に導入実績がありますが、導入都度その拠点に合った機能を追加・充実させており、現在の主な機能は以下の通りとなっています。

- 1) 指示データ取込み、及び報告データ作成機能
- 2) 配車計画機能(自動積合せ、自動業者割付等)
- 3) 帳票出力機能(配車依頼表、送り状、荷札等)
- 4) 輸送料計算機能
- 5) 受払管理機能(在庫管理、荷役料、保管料の計算)

大量のデータ連携が必要な場合や、複数拠点に跨っての業務が有る場合には物流基幹システムが力を発揮しますが、複数拠点にデータ配信する必要が無い場合には、安価で、きめ細かい現場の要望にも柔軟に対応することができる『物流拠点パッケージ』も非常に有効なシステムメニューの1つだと考えています。今後は、現場ニーズに合ったものをより短期間で導入できるようパッケージとしての機能性を高め、3PL事業の展開に貢献して行きたいと思っています。



## 5. 衛星場所自慢 Part2 ～海外編②～MCL Logistics Asia Pte Ltd

MCL Logistics Asia社は、1993年にシンガポール駐在所として発足し、1995年4月より現地法人としてスタート致しました。事業内容は国際輸送・外航・陸運と多岐にわたっており、現在はアジア各国・北米・欧州向けの輸出業務を中心として事業運営を行っております。

シンガポールは、北緯1度の赤道直下、マレー半島(即ち、アジア大陸)の最南端に位置しています。中東や欧州と東アジアの国々を結ぶ海上交易ルートであるマラッカ海峡の出入口にあり、古くから東南アジア域内における貿易ルートの拠点として繁栄してきました。その地理的優位性から、現在に至ってはコンテナ取扱量、取扱貨物総重量ともに世界一を誇っています。

人口約499万人、国土が東京23区とほぼ同じ面積という小国ながら、建国以来、著しい経済発展を遂げ、東南アジア地域では他に比肩しない豊かな国です。日本食スーパー、日本食レストラン、日本でも有名なラーメン店・居酒屋等々、日本食に困ることは皆無ですし、国内の公共交通機関も地下鉄・バス網が国土全体に張り巡らされた東京をも圧倒する大都会です。

また、シンガポールは良く「ファイン」な国と言われますが、確かに町には緑が多く植えられて美しく、町並みも整然としています。ただ「ファイン」にはもう一つ意味があり、それは「罰金」です。実は何でも罰金刑の「罰金大国」で、電車内での飲食は罰金、ゴミのポイ捨てで罰金、道路へつばを吐いたら罰金、公衆トイレの水を流し忘れたら罰金、水溜りにボウフラを発生させたら罰金?それどころ、この美しい町並みが実現・維持できているのかもしれない。

絶え間なく発展し続けるシンガポール。今年はユニバーサルスタジオ、カジノがオープンし、観光スポットも非常に充実してきております。機会がございましたら是非一度シンガポールにお越し下さい。



## 6. ロジスティクス・SCM+流通フェア

去る7月9日に大手町サンケイプラザで開催されました「ロジスティクス・SCM+流通フェア」を見学してまいりました。SCMやロジスティクスに関する多くのセミナーが行われる中で、特別講演の1つである「21世紀における子会社の物流戦略」を聴講しました。タカラ物流システムの社長であり『儲かる会社に変える 貧乏人の発想 金持ちの行動』の著者でもある大谷将夫氏のお話はとても69歳とは思えない迫力で、圧倒されました。講演内容は会社のテーマや強み・弱みなど多岐にわたっておりましたが、特に印象に残った点を掲載させていただきます。

◇親会社にどう貢献するか・・・コストダウンによる利益還元+物流品質向上

(宝酒造社に対して10年間で約7億円のコストダウンを提供)

◇自立経営へ(独立採算性、外販比率50%以上目標)

◇営業は、親会社(=荷主)に対して、適正なサービスなのか、過剰サービスなのかを見極める必要あり

◇計画・目標に対して言い訳する人、ムリという人はいない、どうしたらできるか?を考えること

◇コミュニケーションを見る(社長から現場へ、現場から社長へ、隣の部署同士の風通しは?)

等々、子会社かどうにかかわらず、企業としてのあり方を考えさせられるよい機会となりました。

## 7. (社)日本ロジスティクスシステム協会(JILS)「物流子会社懇話会」について

当懇話会は、物流子会社の抱えている問題や課題をとりあげ、その対策や解決方法についてメンバーが「“GIVE AND TAKE”の姿勢(=会のポリシー)」で意見交換を行ない、物流革新を推進する母体としての物流子会社のあるべき方向を探ることを狙いとしています。

28年目の今年度は、4月～2011年3月まで毎月1回、世界貿易センタービルディング(浜松町)内にある「東京會館」を主会場に実施します。参加57社(111名)が7グループに分かれテーマ研究・発表(7回)、講演会(8回)、物流センターや工場等、国内現場視察活動(2回)を通じて物流子会社間での交流、共同研究を行ないます。今年度、当社はDグループの幹事会社として「新規事業開発」をテーマに、研究がスムーズに行くようサポートしています。

昨年度、当社はDグループ8社のリーダー会社として、「業務改善」をテーマとして7月の報告会で発表し、活発な意見・情報交換を図りました。全体の講演会では、「小集団活動で成果を出す物流現場力」「企業経営と環境問題対応」「ロジスティクスにおける指標管理の基礎」「米国3PL企業に学ぶ独自固有戦略」「中国の最新ロジスティクス事情」「親会社から独立した3PL事業への転換」他、著名な講師陣やJILSから最新の情報を学びました。更に、全体での鹿児島と北海道函館の物流施設の見学や、Dグループ間での物流施設訪問を相互に行うことで、物流の実態を反映した活きた知識を学ぶことができた実感しております。

### 夏のそよ風

ソリューション部 高木 茂信

「ゲリラ豪雨」の後には「猛暑日」と、各地で尊い命を失うような自然災害?が多発しています。これらの被害を見てみると、特に豪雨被害では住民の方々には「まさか裏山が・」とか「まさかこの川が・」等、予想もしなかったような状況が発生してしまっているのではないのでしょうか?東京都区内でも床上浸水などの被害が時々報告されますが、私自身荒川の近くに住んでおきながら、全く浸水被害など想定していません。私のような凡人には、経験を超える予想はできないものなのかと思うこの頃です。

一方で昨今の経済評論をみると、欧米金融不安/中国成長の鈍化/日本の財政不安など、予測は沢山でていますが、結局先行き不透明という事でしょうか。秋を迎えるに当たり、予想を超える暴風雨が吹荒れない事を祈りつつ、状況判断を間違えない様にしたいものです。